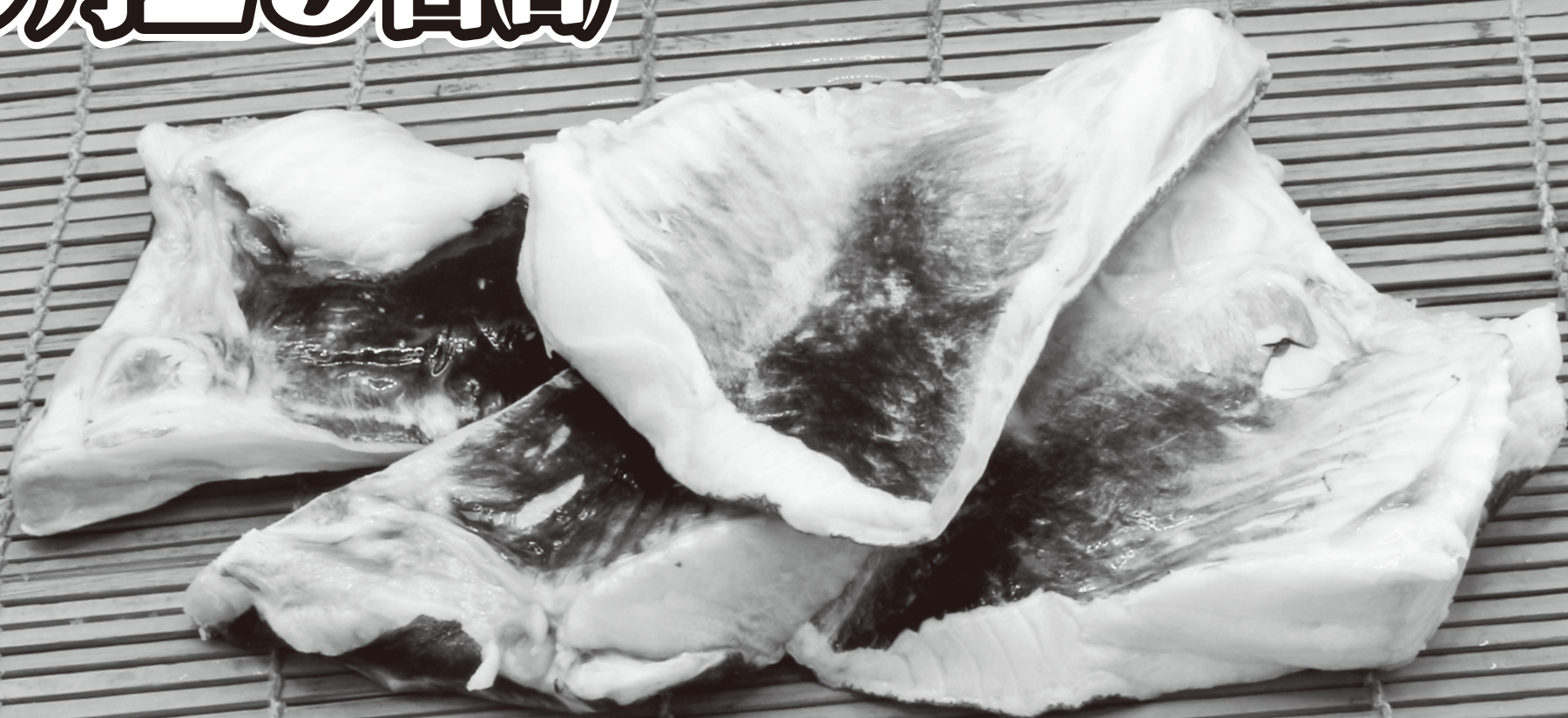


9月29日(日)



銀だらのカマ

店長イチオシ 脂ののつた高級魚

1パック(4個入)

980(税込)円

 **西田鮮魚店**

72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

今回ご紹介する魚は銀だらのカマです！
 銀だらにはご存知の方もいらっしゃると思いますが高級魚で身がふっくら、脂のりが良く、本当に美味しい魚で料理方法もさまざま。焼いてめっちゃくちゃ美味しい、煮てもめっちゃくちゃ美味しい。西京味噌に浸けても揚げてもよい、刺身以外なら全てに対応できるお魚。それが銀だらなんです！！

今回はそのカマの部分の販売致します。
 サイズは130g〜150gとややバラつきがあるので料理方法によって使い方を変えてみるのもいいですね。

少し小さいサイズは揚物に、大きいサイズは焼物、煮付けにどうですか？
 是非色々な料理でお試し下さい！また、料理方法も教えて頂けたら嬉しいですよ！

このカマは注文かけても中々手に入らない為、2ヶ月間越しの入荷です！
 希少で少し見た目も悪いですが、是非この銀だらかマを食べてみて下さい！！美味しいですよー！

今回は4つ入れて980円税込みで販売致します。小分けも致しますのでお気軽にスタッフに言って下さいね！

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

『鮮コピーレーションの写真集Ⅲ』

ふたたび宮角さん



鮮コピーレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

『悠々として急げ We are V Style』
鮮コピーレーションの写真集の表紙に、こう書きました。
18才で両親と働き始め、68才で息子に後を託す私の思いです。50年かけてここに辿りつきました。

宮角さんとのコラボが始まったこのプロジェクト。
この写真集をモノクロにすると決めたものの、宮角さんの言う『モノクロ』は、そう、おいそれと表現できる黒と白ではありません。大丈夫か？

編集を担当したシンセイアートの福岡さんが言います。
「ふつうに使う黒は黒という単色の黒なんです。いつもの新鮮市場のチラシは、ふつうの黒です。当然、この前の写真集のチラシも、ふつうの黒でした。この黒の色は薄いんです。しかし、宮角さんの言われる『黒』は違うんです。4つの色を混ぜ合わせて作るんです。シアン(水色)・マゼンタ(ピンク)・イエローそしてブラックの4色です。でも、ただ混ぜれば良いというものでもないんです。それぞれの色の割合を調整することで初めて、宮角さんの言われる、深みのある吸い込まれるような『黒』が、できあがるんです。」
なるほど……

「じゃあ、今度も大変だったんじゃない？」
「いえ、そうでもなかったです。2010年に出版された『グランドゼロ 希望の神話』という写真集も、うちでやらしてもらったんですが、その時はアナログの機械だったんで、とても苦労したらしいです。でも今はデジタルの良い機械が入っていて、わりとすんなりイメージどおりだと言ってもらえました。」

彼が言うには、そのデジタルの印刷機も、そうとう高額らしく、どこにでもあるという代物ではないそうです。
「塩本会長は、そういうところには投資を惜しんでんないですから。」

確かに。誠ちゃんは、自慢たらしいことは言わない男ですが、「ドイツ製の最新の機械を入れるんじゃないけど、これだよ」と差別化できる」と目を輝かせていたことがあります。「でも、高いんじゃない」とも。金額を聞いてびっくりしました。うちの店が一軒できるじゃないか。
そんなやりとりをしながらできあがった写真を見ると、私のような素人でさえ、深みのある吸い込まれるような『黒』を感じる事ができました。

写真ができあがり、編集に入ります。
「写真のバックをどうする？黒？白？」
わかりやすいのは白です。明るい。鮮明。清潔感がある。文字が読みやすい。でも……

「宮角さん、どっちがいいですか？」「黒でしょ」
「ページの大きさは？B4？B5？」
B4は新聞紙片面の4分の1くらいの大きさ。大きい方が迫力があります。しかし、高い。かなり高くなります。
「宮角さん、どっちがいいですか？」「B4でしょ」
迷っていると誠ちゃんが言いました。「差額は、わしがみちやるけんB4にせえ」。太っ腹じゃのう。心が動きました。「でもなあ……」

思い切ってB4にしました。もちろん、お金は自分で……
宮角さんをお願いしてよかったのは、写真集そのものの出来栄だけではありません。
この写真集を貫くテーマ、もつといえは、鮮コピーレーションの拠って立つ生き方に私自身が気づけたことでした。それが『命』です。

被写体の私たちが、それぞれに魚や野菜や米を手にし、笑顔をつくるでもなく、真顔でカメラの前に立ったとき、その全員に宮角さんは目を閉じるように言われました。そして、「命を感じてください」と。

撮影が終わり、何日かして出来上がった写真に、一枚一枚目を通しました。そして思いました。
この写真集のコピーも文章も、すべて私が書かなければいけない。プロのコピーライターにまかせるわけにはいかない。それほど、写真に力がありません。

私の言葉で、ここまで育ててきた鮮コピーレーションという会社の思いを伝えなくてはいけない。そうすることで初めて、この写真集に魂が入るんだ。強く、そう思いました。
「鮮コピーレーションで働く人たちの人生。私たちの血となり肉となってくれる生き物たちの命。あだや、おろそかにしてはいけません。」
宮角さんが、宮角さんの写真が、それに気づかせ導いてくれました。

原爆ドームを背景に、ドームを訪れる世界中の人々を、国や宗教に関係なく、有名無名も関係なく、老若男女も関係なく撮り続けた『グランドゼロ 希望の神話』。
宮角さんの、そうした行動の原点がどこにあるのか、私は知りません。

被爆二世として生まれ、カメラマンとして生きる男の、止むに止まれぬ思いの発露なのだろうと想像はしますが……
ドームの前で宮角さんは、カメラの前に立つ人たちに必ずお願いされるそうです。私たちに話されたように。

「目を閉じて平和について考えてみてください。」
ジョン・レノンの『イマジジン』が流れてきそうです。

この9月、新宿のはずれ、牛込柳町という町の『つず久』という15人も入れば、身動きできなくなるような、狭い狭い、宮角さん夫婦の行きつけの居酒屋に連れて行っていただきました。2度目なのですが、いい店です。もう、何と言っているのか。とにかくいいです。星5つ☆☆☆☆です。そのお店の前で写真を撮りました。



『グランドゼロ 希望の神話 II』を来年3月に出版されるそうです。

そして、そのための資金集めの一環として、クラウドファンディングを始められています。
くわしくは宮角さんのホームページをご覧ください。